令和６年　３月　４日

令和５年度　学校関係者評価報告について

学校法人　山口学園
長崎公務員専門学校
学校関係者評価委員会

令和５年度　学校関係者評価について，下記の通り評価結果を報告します。

記

１．学校関係者評価委員

(ア) 関連業界関係者（公務員）

(イ) 関連業界関係者（公務員）

(ウ) 卒業生

(エ) 卒業生

(オ) 教育に関し知見を有する者

(カ) 教育に関し知見を有する者

(キ) その他校長が必要と認める者

(ク) その他校長が必要と認める者

２．学校関係者評価委員会の開催状況

(ア) 第１回学校関係者評価委員会　令和６年２月１７日（土）　現地開催

(イ) 第２回学校関係者評価委員会　令和６年３月　２日（土）　書面決議

３．学校関係者評価委員会報告

別紙,「令和５年度　学校関係者評価報告書」のとおり

以上

令和5年度　学校関係者評価報告書

関係者委員会の評価, 意見および提案

令和6年　3月　2日

学校法人　山口学園

長崎公務員専門学校

「自己評価」結果に対する評価

1.　教育理念・目的・育成人材像

意見なし

2.　学校運営

（ア）（2-2　業務の効率化について）自己評価 B

① 業務の効率化については課題が残る。

② 現状，判断理由の一つに企画提案の件数が用いられているが，件数よりもその中身が重要だと考える。その企画提案により，業務量が削減されたのであれば，評価は A にしてもいいのではないか。

③ 教職員アンケートで低く評価した教職員が，どんな理由で低く評価したかを知ることはできないのか。

… 自己評価委員長より「自由記述欄は設けていたが，理由については記載がなかった。」

④ 理由が分からなければ対策を取るのは難しい。

⑤ 企画提案実績一覧を見ると，ほとんどが管理職側からの案件になっている。もっと現場の教職員からの提案が上ってくるとよい。

⑥ 現在の質問項目（業務の効率化が図られていると感じるか）では，『自身が効率化を図っているか』を問われていると履き違う可能性がある。

（イ）（2-4　学生，教職員満足度について）自己評価 B

① 目標値である学生満足度 100%は高すぎるのではないか。必ず何名かは学校に対して反感を持つ人がいる。また，学生満足度も，教職員満足度も 100%を達成することに固執すれば，100%でなければいけないという圧力がかかってしまう。それでは，正確なアンケート結果が得られなくなるのではないか。むしろ，目標値を下げ，素直に答えられるようになれば，課題を明らかにすることができ，改善に繋げられるのではないか。

… 自己評価委員長より「学生については，残り1名というところで，あともう少しだった。実現できる目標値であると感じている。また教職員については，同じ職員室の中で，毎日顔を合わせている以上，最低でも全員を『どちらでもない』以上にはしなければいけないと考えている。」

3.　教育活動

（ア）（3-2　教職員の資質能力向上や授業改善について）自己評価 B

① 教職員の資質能力向上のために現状どのような取り組みを行っているか。

… 自己評価委員長より「以前は，様々な団体が実施する研修，セミナーを教職員に対し案内していた。しかしながら，参加に意欲的な教職員はほとんどおらず，その原因を考えるようになった。その結果，教職員が必要としている資質能力や，学校が教職員に求めている資質能力と提供する研修，セミナーのマッチングを行っていないことが原因だと結論付けた。一度，この資質能力向

上のための全体像を示したうえでなければ，ただ単純に案内するだけのやり方は，押しつけにしかならないと考え，現在は控えている。」

② 役職に合わせた希望研修，必須研修というものを考える必要があるだろう。

③ 教員は授業研究で忙しい。充分な職員数が確保されなければ，なかなか研修に割く時間は取れないこともあるだろう。

④ 私の職場では，社会人としてのスキルを学ぶための研修や，業務に必要な知識を学ぶための研修，人を率いるための研修や，マネジメントのための研修がある。少なくとも，決められた研修には参加しなければいけない。

⑤ 高校では，教育センターが研修を企画しており，教科指導や，生徒指導，進路指導など様々な研修が準備されている。高校の教員はその中から希望する研修に参加することができる。学校として，そういった道の整理からした方がいいのではないか。

⑥ 例えば，教職員がどんな研修を必要としているかアンケートをとって，研修に対して能動的になってもらうことができれば研修への取り組み方は変わってくるのではないか。

⑦ 年間の事業計画を組む中に，研修計画を組み込むことも必要ではないか。

⑧ 職員の研修を例えば年齢や，役職に合わせて計画を立てようとすれば，単年度の事業計画のみでは足りない。中期計画の中で職員の年齢，役職に合わせた研修を一つずつ準備していくことで，一人ずつでも研修への参加を進めていきながら，システムの構築を行うことが必要だろう。

4. 学修成果

（ア）<u>（4-1 目標とする学修成果の達成について）自己評価 B</u>

① 突破率については前年度からかなり減少している。面接指導の在り方を根本的に見直さなければならないのではないか。

② 最近では，これまで一般的だった教養試験に加えて，民間企業でも採用されている SPI 試験を導入する自治体が増えている。しかしながら，私の印象だと，片方の準備をしていたらもう片方には合格できないということはない。一次試験は合格しやすいという印象。一方で，最近は二次試験以降にプレゼンテーションやグループワークが課されているなど，多様化し始めている。二次試験以降で三次，四次まで行わる採用試験もあり，より人物試験に重きが置かれ，難しくもなっている。その中で突破率 90%という目標は少し高すぎるのではないか。

… 自己評価委員長より「理想は学生が第一志望としている自治体に最終合格させること。それに比べれば，この一次試験合格率や突破率は一つでも一次試験あるいは最終試験に合格すれば，クリアできるものである。目標は下げず，頑張りたい。」

③ 最終試験の突破率（最終試験を受験した学生のうち，最終合格した学生の割合）という指標に変えても良いのではないか。

5. 学生支援

（ア）<u>（5-3 長欠および成績不振による退学率の低減について）自己評価 B</u>

① 退学率の目標値は 5.0%程度でもいいのではないか。

② 退学率の目標値である 3.0%以内の根拠はなにか。

… 自己評価委員長より「目標値を設定する際に公表されていた発達障害等困難のある生徒の割合を基に設定している。」

③ 目標値の設定の仕方として，これまでの実績から算出することもできるのではないか。入学を保護者から勧められる学生も多いだろうし，志望意欲が高くない学生も多いだろう。

… 自己評価委員長より「理想論かもしれないが，やはり公務員専門学校として受け入れた以上は，公務員として卒業させることがこの学校の存在意義だと考えている。」

6. 教育環境

意見なし

7. 学生募集

（ア）（7-1 学生募集が適切かつ効果的に行われているかについて）自己評価 B

① （定員充足率について）定員の見直しを行った方が良いのではないか。

… 自己評価委員長より「現在の定数は，経営的に算出したものではなく，また欠員だからといって，何らかの影響を与えるものではない。学生数の減少自体は問題であるが，欠員であることは大きな問題ではないと考えている。」

8. 財務

意見なし

9. 法令等の遵守

意見なし

10. 社会貢献・地域貢献

意見なし

「本年度の総合的な評価結果」に対する評価

意見なし

「今後取り組むべき課題(改善策)」に対する評価

1.　学生に関すること

(ア)(4-1　昼間部一次合格率の向上について)

意見なし

(イ)(4-1　昼間部突破率の向上について)

① 以前，採用面接の面接官をしていた時，受験生の中にはマニュアル的な回答ばかりをする方が多く，うんざりすることも多かった。そのため，マニュアル化した面接練習では意味がないと感じている。

② 面接はやはり自分の言葉で話すことが大事。また，一番は雰囲気である。面接官がこの受験生となら一緒に働いてもいいなと思えるかどうかが重要だと思う。

③ 人物試験に対応できる力の醸成について，参考事例として紹介したい。以前行ったのは，学生に課題を与え，考えさせた後，発表させる。さらにその発表について本人に振り返りをさせる。これが，人前で発言する力や，メタ認知の形成に繋がる。

④ 文科省も「キャリアパスポート」などによって示しているが，小学校くらいからの振り返りも重要である。それによって，今の自分というものがどんな経験の中で形作られているのか知ることができる。

⑤ 小学校や中学校などでもらう通知表などを見直してもいいかもしれない。小さい頃から続けていること，何か一本筋が通ったものがあれば，面接の中で話ができる。それを聞き出すこと，見つけてやることが必要になる。

⑥ ボランティアの話も出たが，やはり一人ひとりに対して，体験活動などを含めた試行錯誤を続けなければ，人物試験には対応できないのではないか。

2.　教職員に関すること

(ア)(2-2　業務の効率化について)

意見なし

(イ)(3-2　教職員の資質能力向上，授業改善について)

意見なし

学校運営の改善に関する提言

1. 教育の営みは教員と学生により，個々の現場で行われている。いろいろな制度を作ってもその事実は変わらない。「学校評価」とうい制度にあまりにも真面目に取り組む必要はない。自己評価のために，教えることがおろそかになってはならない。いかに教職員が気分よく働けるかを考えることが重要である。

2. 公務員には庶民目線，市民目線など，異なる視点に立った振る舞いが求められる。

3. SNS が，ターゲット層の学生や保護者の情報収集ツールのメインであると推察している。すでに Instagram は導入されているが，今後は頻度や内容をよりブラッシュアップし，積極的に活用するのが望ましい。